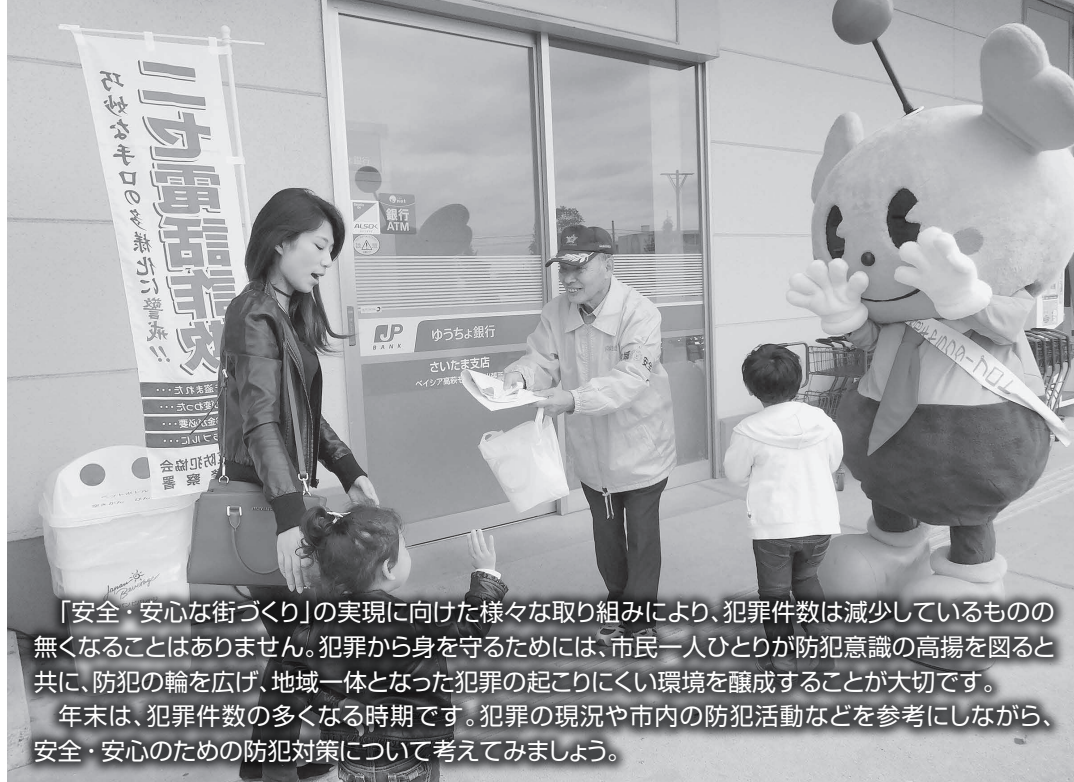


防犯まちづくり

みんなでつくる安全・安心な街

問合せ：総務課
☎23-2119



「安全・安心な街づくり」の実現に向けた様々な取り組みにより、犯罪件数は減少しているものの無くなることはありません。犯罪から身を守るためには、市民一人ひとりが防犯意識の高揚を図ると共に、防犯の輪を広げ、地域一体となった犯罪の起こりにくい環境を醸成することが大切です。年末は、犯罪件数の多くなる時期です。犯罪の現況や市内の防犯活動などを参考にしながら、安全・安心のための防犯対策について考えてみましょう。

◆県内の犯罪状況

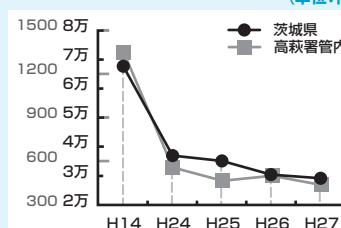
茨城県内の刑法犯認知件数は、平成14年の約6万8千件をピークに13年連続で減少を続け、平成27年は約2万9千件となりました。内訳を見ると、空き巣や自動車盗、ひったくりなどを含む「窃盗犯」が約8割を占めています。

一方で、子供や女性などを対象とする犯罪は後を絶たず、特に高齢者が狙われる二重電話詐欺等の「特殊詐欺」は深刻化しています。特殊詐欺の件数は、平成26年の301件から平成27年は404件、被害総額にして約12億2千万円に上ります。被害者の6割は65歳以上の高齢者で、被害内容は「オレオレ詐欺」や「架空請求詐欺」がほとんどです。

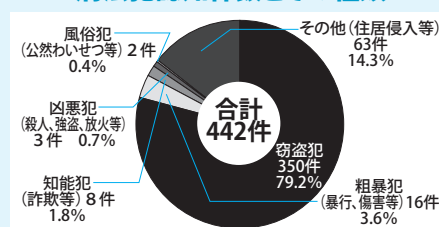
◆高萩警察署管内の現況

平成27年高萩警察署管内における刑法犯認知件数は442件で、県内全体件数の約1.5%にとどまります。内訳をみると、窃盗犯が350件と一番多く県内の比率同様に約8割を占めて

茨城県・高萩警察署管内の刑法犯認知件数 (単位:件)



平成27年高萩警察署管内で発生した刑法犯認知件数とその種類



います。このほか、暴行や傷害等の粗暴犯が16件、詐欺等の知能犯が8件、強盗や放火等の凶悪犯が3件です。特徴として、自転車盗(窃盗)は、鍵を破損するなどの被害は一部でほとんどが無施錠による被害です。また、住居侵入においても、多くが無施錠の箇所から侵入され被害に遭っています。

怪しい場合には相談を！ 架空請求詐欺には 要注意！！



「オレオレ詐欺」や「架空請求詐欺」など、絶対に騙されないと！と思っていても、相手の巧妙な手口に動揺して正常に判断ができず、被害に遭ってしまうケースが後を絶ちません。特に、ギフト券(プリペイド型電子マネー)を購入させ、その番号を聞き出す架空請求詐欺が県内で急増しています。

「何か怪しい…、不安だ…」など少しでも不自然な点があれば、決して一人で判断せず、必ず家族や警察などに相談しましょう。

【事例】 有料サイトの利用料金請求から、 電子マネーの利用権をだまし取る手口



- ①身に覚えのないメールを受信する。
(例)「有料サイト利用履歴があり未納状態です。期限までに入金を確認できない場合は、法的手段に移行しますので至急ご連絡ください。」
- ②問合せ先に連絡すると、コンビニ等で販売されているプリペイドカード型電子マネー(ギフト券)を購入するよう指示される。
- ③電子マネーを購入したのち問合せ先に連絡すると、電子マネーのシリアル番号や暗証番号等の画像(写真)送信を指示される。
- ④送信した画像(シリアル番号や暗証番号)から利用権がだまし取られ、インターネット上で他人に利用されてしまう。

地域で実践できる防犯対策



高萩警察署
生活安全課

服部 宗雄 課長

「防犯は、鍵かけ声かけ」

「心かけ」という言葉があります。皆さんも一度は聞いたことがあるのではないのでしょうか。私も、以前はゴロの良言葉という程度の認識でしたが、防犯に携わるようになり、この言葉は「内容は簡単に実践でき、一番効果のある防犯対策である」ということを実感しています。

ところで、県内での昨年の住宅侵入窃盗は2,294件で、そのうち鍵の無締りによる被害は約50%に上ります。全国の無締りの割合は約47%ですので、本県は若干高めと言えます。中でも、県内の無締り住宅侵入による強盗事件発生を見ると、昨年は60%ですが平成19年と24年に限って言えば100%でした。施錠していれば起こらなかったとは言いい切れま

せんが、被害を防げた可能性は高いと考えます。

全国では、次のような事例があります。窃盗の犯人が、アパートの1階に侵入を試みたところ施錠されていたため犯行を諦め、ベランダづたいに2階に上がりました。そして、2階で無締りの部屋を見つけて侵入しましたが家人に見つかり、家人を殺害してしまつたのです。このように、鍵かけ一つが、生死をも左右する場合があるのです。

また、泥棒が侵入にどれくらい時間がかかると諦めるかというデータがあります。2分で約2割が諦め、5分を超えると約7割が諦めます。逆に言えば、**侵入に5分耐えれば7割の犯人は諦める**のです。このように「鍵かけ」はとても大切な防犯対策の一つなのです。

次に、「声かけ」ですが、住宅侵入窃盗の犯人が、犯行を諦める一番の理由として「犯行前、もしくは犯行のための下見をしている際、地域の住民から声を掛けられた、

挨拶された、じろじろ見られた。」と話しています。番犬よりも、防犯カメラよりも、更にはバトロール中の警察官よりも、何より地域の皆さんの目を恐れていることが分かります。

このように「鍵かけ」と「声かけ」することを「心かける」ということが、とても効果的な防犯対策になるのです。**声かけにより犯人をけん制し、鍵かけにより自宅と身を守り、この地域では犯罪を起こすのは大変だと犯人に思わせるよう、皆さんで犯罪の起こりにくい街づくりをしていきましょう。**

高萩市内の警察署、交番、駐在所

名称	住所	電話
高萩警察署	高戸315-10	24-0110
高萩駅前交番	高萩1927-12	22-0110
秋山駐在所	秋山3025-20	23-0645
上手綱駐在所	上手綱2351-1	23-0110
若栗駐在所	若栗136-7	28-0110

防犯には地域の連携が欠かせません

各地区の自警団組織

高萩市では、安全・安心な街づくりを目指し、警察機関等と協力して活動する様々な防犯ボランティア団体が組織されています。特に、各地域内で任意に組織されている「自警団」の存在は、「自分たちのまちは自分たちで守る」という意識のもと、地域パトロール活動や防犯気運の醸成に努め、犯罪の起こりにくい地域づくりに大きく貢献されています。



高萩市内の自警団

自警団名	代表者
向洋台自警団	遠藤 誠
高浜防犯パトロール隊	田中 弘
秋山下防犯防災自警団	下山田幸男
赤浜安心寿隊	長久保興四郎
石滝自警団	坂爪 克彦
小島団地防犯パトロール隊	山田 成
竹内地区自主防災防犯絆隊	藤橋 光一



向洋台自警団
団長

遠藤 誠さん

「団地内の安全のために何かできないか」と有志が集まり、パトロール隊として活動を始めたのがきっかけです。現在、団員十数名で週3回、約1時間をかけて団地内をパトロールしています。また、子供たちが夏休み・冬休みの時期や、夏の盆踊りなど地域イベントの際には、青色パトロールカーも使い随時パトロールをすることになっています。

自警団パトロールの目的は、地域内での犯罪抑止に貢献することが第一ですが、同団地内の自警団メンバーと懇親を深められることにもつながっています。また、パトロールをしていると「こんにちは！大変です！お疲れ様！」など、住民から労いの言葉を受けた時はやっいて良かったと思いいなります。

高萩市内には、他にもいくつか地域自警団が組織されています。自警団のメンバーが多いことは、地域で生活する上での安心につながります。「地域の安全安心のためには何かできれば」という想いのある人は、ぜひ参加して欲しいです。

